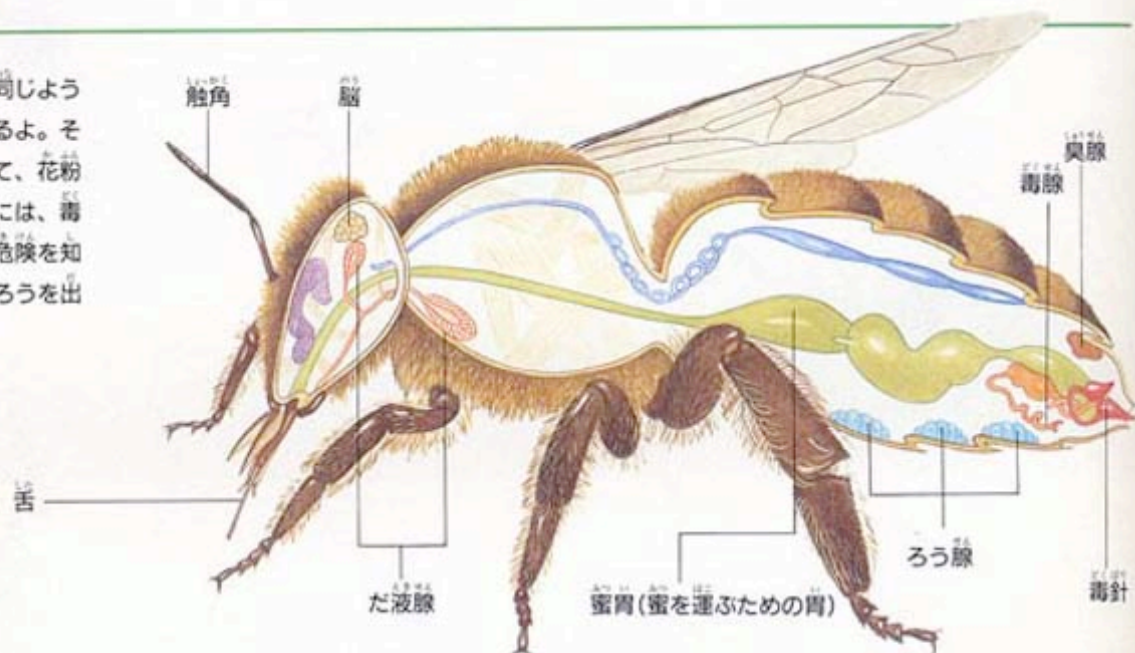


■働きバチの体

働きバチの体は、ほかの昆虫と同じように、頭部と胸部、腹部に分かれているよ。そして、体中に毛がたくさん生えていて、花粉が付きやすくなっているんだ。腹部には、毒針や、なかまを集箱に誘導したり、危険を知らせるにおいを出す臭腺、そして、ろうを出すろう腺などがあるんだ。



■巣づくりのしくみ



▲花の蜜をいっぱい食べた働きバチは、蜜を体内でハチミツに加工し、ハチミツ100gあたり10gの蜜ろうをつくる。この蜜ろうはろう腺でつくられ、ろう鏡というところで魚のうろこのように形を整えた後、うすい小さなかたまり(ろう片)として分泌される。



▲ろう片を、後ろ足の第一ふ節というところに生えているブラシ状の毛にひっかけて、口に運ぶ。そして、口にろう片をかみくだく。



▲ろうを口にくわえ、頭をふりながら、六角形の巣をつくっていく。六角形にするのは、少ない材料でじょうぶな巣が作れるからだ。巣は両側に同じようにつくられ、しかも、中に入れるハチミツなどがこぼれないように、9~14度上向きにつくられる。